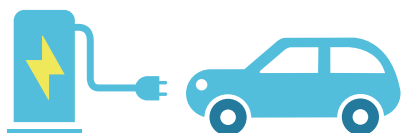


VOL.
07**with LIFE**

自宅に設置する EV・PHEV充電器 について

設置工事費用や補助金について解説

走行コストが経済的で今後の普及拡大が期待されているEV車。購入補助金制度の増額もあって、自宅にEV充電器の設置を検討されている方も多いかもしれません。今回はそんな方のために、家庭用EV充電器のタイプや設置費、国の補助金などについて解説します。



家庭用EV充電器には「自立スタンドタイプ」「壁付けタイプ(ボックス・ケーブル付属)」「壁付けコンセントタイプ」の3種類があります。自立スタンドタイプは家と駐車場が離れている場合に便利で、商業施設などで見かけることが多いです。素敵な見た目に伴って本体価格も20万円以上と少し高めです。壁付けタイプは一軒家でよく見る一般的なタイプで駐車場と建物の距離が近い時に最適です。本体価格は15万円位からになります。壁付けコンセントタイプは最もシンプル

でサイズも小さく価格も4千円からと安いのが特徴です。新築戸建てに予め設置されているのはこのタイプが多いです。その他、家庭用EV充電器の設置工事は、10万円～30万円前後が相場になります。

またEV車導入の際は国や自治体のEV補助金を活用しましょう。国の補助金は2023年度で上限85万円です。この補助金や交付条件は毎年変わるので、国や自治体のホームページで最新情報をチェックする必要があります。

●経済産業省 参考ページ

「クリーンエネルギー自動車導入促進補助金」「クリーンエネルギー自動車の普及促進に向けた充電・充てんインフラ等導入促進補助金」

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/automobile/cev/r4hosei_cev_infrastructure.html



車検合格に黄信号?! そのヘッドライト、大丈夫ですか?

車検のヘッドライト審査の方法が変わります

車検のヘッドライト審査において2018年から実施していたロービーム計測ですが、計測困難車においては過渡期取り扱いとしてハイビームの測定を実施してきました。国交省は周知開始から5年が経過したことで過渡期取り扱いを見直し、2024年8月以降、対象自動車は全車ロービーム計測のみで基準適合性審査実施となります。

① 対象自動車

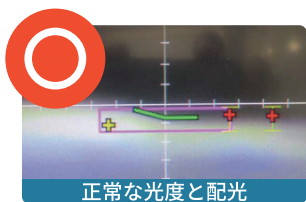
平成10年9月1日以降に製作された自動車
(二輪車、側車付二輪車、大型特殊自動車及びトレーラを除く)

② 過渡期取扱いの見直し【過渡期取扱いの廃止】

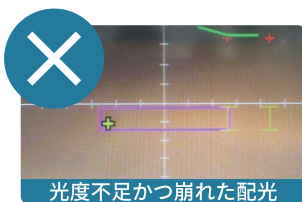
令和6年8月1日以降、対象自動車の前照灯の審査については、**全車、ロービーム計測のみで基準適合性審査を実施します。**
(ロービーム計測で基準不適合の場合、ハイビーム計測は行いません)

参考:過渡期取扱い

- (1)ロービームの右側及び左側の両方を計測する。
- (2)(1)による計測の結果、判定が困難な場合、その照射光線が他の交通を妨げるものでないことが確認できたものに限り、ハイビームに切り替えて計測することができる。



正常な光度と配光



光度不足かつ崩れた配光

⚠ これらは適切な整備・調整が必要です! ⚠



レンズ面の劣化



内部リフレクタの劣化



相性の悪いバルブに交換

適切な整備と見直しを。

ロービーム計測で基準不適合となる車は、光度不足や配光が崩れた状態の車が多く見られます。

また、視認性向上等でヘッドライトのLED化が急速に進みましたが、LEDの発熱量では雪を溶かしきれずに、かえって視認性が悪くなる場合も。降雪の備えも兼ね、今一度ヘッドライトの適切な整備・調整をしましょう。

イチ押し
メンテナンス
— ATTENTION! —

夜間の視認性を回復させ安全・安心な運転へ。
プロに施工で約2年の持続性※が
高いコーティング効果。

※車両使用環境・保管状況により持続期間が異なる場合があります。

明るさはもちろん、
クリアなライトは新車時の状態へ。



CROSS PRO Line
ヘッドライトクリーニング&
コーティング

★ 施工時間約 **20分**



ヘッドライトの「くすみ」や「小傷」は車の見栄えを古くさせてしまう上、ライトを暗くしてしまい夜間走行の安全性の低下や、車検で不合格になってしまう場合があります。

ヘッドライトクリーニング&コートシステムは「くすみ」「小傷」を落としたあとで、強固なガラス系皮膜でコーティングし透明度を回復します。